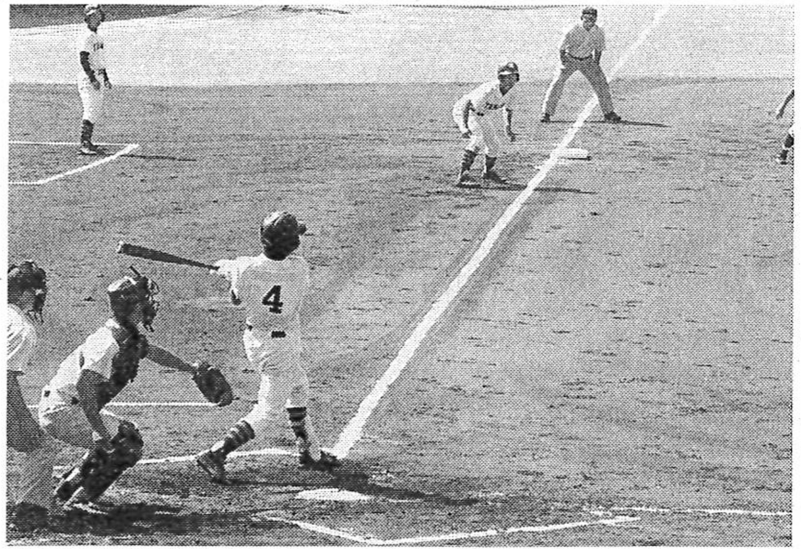
紀伊民報
昭和21年7月10日第3種郵便物認可

田辺工業3回戦進出

新宮、反撃機生かせず

第96回全国高校野球選手権和歌山大会は17日、和歌山市の紀三井寺球場で2回戦3試合があり、第1試合で田辺工業が新宮を3—0で破り、3回戦選出を決めた。18日は終業式のため試合がない。



田辺工業—新宮　田辺工業は2回、有木が中前適時打を放ち追加点を挙げる（17日、和歌山市の紀三井寺球場で）

17日

⚾第1試合（2回戦）

田辺工業	021	000	000	3
新宮	000	000	000	0

〔工〕松本—畠中一〔新〕瀧本、濵地—平田▽二塁打＝那須（工）

田辺工業は2回、左中間二塁打の那須が中継プレーが乱れる間に三進、大和の左中間適時打で先制した。さらに松本の右前打と畠中一の四球で満塁とし、有木が中前適時打を放ってこの回計2点。続く3回には氏川がスクイズを決めてリードを3点に広げた。

新宮は8回、内野安打と2死球で2死満塁と反撃機をつくったが、後続が倒れた。9回も無得点に終わり、田辺工業の先発投手・松本に完封を許した。

田辺工業		打	安	点
[一]	有木	5	2	1
[左]	小田	4	2	0
[右]	小池	5	1	0
[遊]	谷口	4	1	0
[二]	那須	4	1	0
[三]	大和	3	1	1
[中]	氏川	2	0	1
[投]	松本	4	2	0
[捕]	畠中一	3	0	0
振 球 犠 併 残	7 1 4 1 9	34	10	3

新宮		打	安	点
[二]	植村	3	1	0
[左]	坂野	4	0	0
[三]	和田	3	0	0
[捕]	平田	4	1	0
[遊]	大石	4	1	0
[右]	永春	4	0	0
[投]	瀧本	0	0	0
打	出下	1	0	0
投	濵地	3	0	0
[一]	井戸	2	1	0
[中]	佐々木	2	0	0
打	合田	1	0	0
中	西	0	0	0
振 球 犠 併 残	3 3 0 0 7	31	4	0

投手	回	打	安	振	球
松本	9	34	4	3	3
瀧本	2	12	5	1	1
濵地	7	27	5	6	0

⚾16日の結果

第1試合（2回戦）
貴志川9—0日高
（7回コールド）

第2試合（2回戦）
和歌山東12—2笠田
（7回コールド）

第3試合（2回戦）
和歌山商4—0有田中央

⚾19日の試合

第1試合（午前9時）
耐久—那賀

第2試合（午前11時半）
日高中津—伊都

第3試合（午後2時）
智弁和歌山—貴志川

第96回全国高校野球選手権 和歌山大会

白球

新宮

選んだ道 正しかった

0—3で迎えた9回裏、新宮の3年永春大希は無死1塁の場面で打席に立った。

ふと、入学してからのことが頭をよぎった。つらかったこと、楽しかったこと。チームメートと過ごした時間は、いろんなことがあった。「野球を続けてきてよかった」

永春が中学3年生だった2011年9月、田辺市本宮町本宮の自宅を台風12号の豪雨が襲った。避難生活こそ免れたが、1階は高さ1・5㍍ほどまで浸水した。野球どころではなくなった。

それでも、離れると野球への思いは強くなった。しばらくして、永春は決めた。「やっぱり野球をやる」

「やりたいならやればいいし、やめたって構わない」と声を掛けていた父の繁成（50）は「友達もたくさんできたし、寮生活のおかげで料理以外は何でも自分でやるようになった。続けてよかったと思う」と話す。自身も新宮高校の野球部OB。1980年の選抜大会では、選手として甲子園の土を踏んでいる。

「野球を続けたことで最高の仲間に出会えた」と話す永春大希

新宮は今大会、9年ぶりに初戦を突破。チーム状態は上向きだった。試合は2回に2本の適時打を放たれ、3回にはスクイズを決められていたが、永春は「絶対に逆転できる」と焦りはなかった。しかし、相手投手を攻略できないまま、試合が進んだ。

9回裏の打席で永春は結局、併殺打に倒れた。続く打者も遊飛。新宮はわずか4安打に抑えられ、完封負けを喫した。

「悔しいです」。試合後、ロッカールームから出てきた永春は、目を少し赤くして続けた。「でも、この道を選んだのは正しかった。最高の仲間と出会えました」

（敬称略）